

和賀山塊自然環境調査

和賀山塊を愛する会

代表 梁田良雄

1. 分布上注目すべき植物

昨年に引き続き佐藤隆氏を初めとする本会々員とともに、1991年4月から10月まで調査を実施した。本年は、新たに抱返溪谷・薬師岳・甲山・真木溪谷・川口溪谷を加え、調査回数51、調査延べ人数140名で行った。

本山塊は秋田県最大の非火山であり、第三紀の地質に属し、遺存的な種が多く生育している。原生林はブナ混交林であり、ほとんど人為的な影響は受けていない。見事なブナ・天然スギ・ミズナラで占められ、クロベ・ヒノキアスナロ等が混じる。基本的に「日本海要素」の植物で占められているが、オオウラジロノキ・キバナウツギ・ヤシャゼンマイなど太平洋側に分布の中心を持つと考えられている種も見られる。フロラでは、秋田県はもとより全国的に重要な種が多出し、分類学上・植生上注目すべきものが見られる。例えばミノボロ・ミチノククワガタ・ヤマスカシユリ・オサバグサ・カラマツソウ属・シオガマギク属・トウヒレン属等が上げられ、それらの産出量も多い。

また本山塊の森林・溪谷では空中湿度が高く保たれ、着性シダ・ランが数多く、生育状態も非常に良い。このことは和賀山塊が広大な面積を有し、長い歴史を通じ今日まで分断されることなく生態系が原生状態のまま良好に維持されてきたからに他ならないと考えている。

日本の野生植物	シダ	1992 平凡社	日本の野生植物Ⅲ	合弁花類	1981 平凡社.
日本の野生植物Ⅰ	単子葉類	1982 平凡社.	日本の野生植物	木本Ⅰ	1989 平凡社.
日本の野生植物Ⅱ	離弁花類	1982 平凡社.	日本の野生植物	木本Ⅱ	1989 平凡社.

採取標本は、すべて秋田県立博物館（A KM）に保管されている。一部は国立博物館（T N S）および愛知教育大学（A I C H）等のハーバリウムに寄贈した。なお、学名の引用は原則として次の文献に従った。

最後に標本の同定に御指導いただいた中池敏之博士（国立科学博物館）・芹沢俊介博士（愛知教育大学）・山崎敬博士（東京大学）・館岡亜諸博士（国立科学博物館筑波実験植物園）・小山博滋博士（国立科学博物館）・鳴橋直弘博士（富山大学）・神山隆之（栃木県今市市）、また御助言賜った大場達之博士（千葉県立中央博物館）・林一彦博士（大阪学院大学）・佐川昇氏（山形市）・庄子邦光氏（仙台市）・柿崎敬一氏（青山県立郷土館）・野口達也氏（宇都宮市）・竹村健一氏（山形県立博物館）、T N Sでの標本の閲覧に御快諾いただいた金井弘夫博士に深く感謝する。さらに危険な山岳環境のなか、植物調査・採集に同行し、膨大な標本作りに献身的に協力してくれた多くの会員の皆様に謝意を表す。

(1) *Lycopodium chinense* Christ. 「ヒメスギラン」

太田町真木源流の灌木林下の湿った岩上に多数着生している。秋田県稀産のシダ植物である。

(2) *Lycopodium cryptomerinum* Maxim. 「スギラン」

抱返溪谷のところどころの高木に大きな株をつくって着生している。トウゲシバに似た常緑のシダである。本県の極めて稀な植物の一つである。全国でも貴重な種であり、年々、減少している。本山塊では他に白岩岳に産する。

(3) *Osmunda lancea* Thunb. 「ヤシャゼンマイ」

抱返溪谷は本種の秋田県唯一の産地であり、典型的な溪谷沿い植物である。溪谷の遊歩道から神代ダムまで点々と生育し、上流ほど多く生育している。

(4) *Cryptogramma crispa* (L.) R. Br. 「リシリシノブ」

和賀山塊の植生上の大きな特徴の一つは、氷河期の遺存種で、現在北日本北部の高山の岩場に限定され、極めて稀にしか産しないリシリシノブが本山塊に、広範囲にしかも大量に産することである。生育もすこぶる良く大型の株をつくっている。標高わずか540mから現れ始める。これまでの調査では朝日岳・二ノ沢畚・シトナイ沢・シャチアシ沢と確認した。昨年、薬師岳の南斜面の巨大な岩礫地にも多く自生しているのを発見することができた。

本山塊は、本邦におけるリシリシノブの最大級の産地である。

(5) *Adiantum monochlamys* Eat. 「ハコネシダ」

本種は照葉林帯から夏緑林帯下部に生えるシダ植物で、本県には抱返溪谷のみ

に産し、北限に当たる。昨年、新たに本溪谷に注ぐ大相沢・行太沢、対岸の小影山からも確認した。生育は良く、多量に産し、安定している。

(6) *Asplenium tenuicaule* Hayata. 「イワトラノオ」

暗い抱返溪谷のいくつかの岩肌のコケに多数着生している。常緑性のシダである。太平洋側に多く、日本海側では稀少となる。本県では、他に大森町保呂羽山、本山塊の堀木沢に産する。

(7) *Asplenium capillipes* Makino. 「ヒメイワトラノオ」

抱返溪谷の暗いオーバーハング状の安山岩の割れ目に着生。常緑生のシダ植物である。固体数は少ない。本種は、北海道～九州の深山の石灰岩上に稀に生じ、全国的に36地点にすぎない。抱返溪谷は東北地方における初めての産地である。本種の同定は、中池博士による。

(8) *Polystichum polyblepharum* (Roem.) Presl. 「イノデ」

抱返のスギ林に3株ほど自生する。暖地性の常緑シダ植物である。本県の由利海岸南部のスギ林に産する。特に象潟町に暖地性シダが多く産し、北限種が集中している。これは日本海沿岸を北上する対馬暖流の影響で、本県では最も温暖な地となっているためである。植生はヤブツバキ群綱域であり、海岸に沿って細長く入り込んでいる。ここに台風などの南風によって暖地性シダの胞子が大量に運び込まれ、これがたまたま温度格差が低く、湿度の高い広いスギ林などに棲みつ়くことができたと思像される。

本種の北限は男鹿半島入道崎。本県では抱返のような内陸部では実例がない。

(9) *Polystichum longifrons* Kurata. 「アイアスカイノデ」

イノデと同様、由利海岸のスギ林に産する。北限は五城目町森山。抱返のスギ林に3株ほど自生。やはり、本県では、このような内陸部では例がない。

(10) *Polystichum* × *shin-tashiroi* Kurata. 「シロウマイノデ」

芹沢博士と薬師岳に同行の際に採る。博士によるとこのシダは、アズミイノデとサカゲイノデの自然雑種とのこと。ブナ林上部の両親の混生地とその近くに少なからず生育している。朝日岳・甲山にも産す。

シロウマイノデは、ちょうど両親の中間の形態を示し、アズミイノデより小羽片が多く、またほとんど独立する。胞子をみると不定形である。本種は、秋田県で初めて確認された。

(11) *Polystichum braunii* × *retroso-paleacenum*. 「オクキヌイノデ」

ホソイノデとサカゲイノデとの自然雑種である。抱返のスギ林に1株自生する。秋田県初標本。

(12) *Dryopteris erythrosora* (Eat.) O.Kuntze. 「ベニシダ」

暖地性のシダ植物である。包膜が赤い。抱返のスギ林内に4株確認した。県内陸部では皆瀬村小安温泉に産す。しかしここは温泉噴気孔の近くであり冬でも暖かい。抱返のようなどころでは初めてである。

(13) *Dryopteris* × *kominatoensis* Tagawa. 「タコヘゴモドキ」

田沢湖町谷地の沢の広いスギ林内を流れる沢筋に数株自生。ミヤマベニシダとタニヘゴとの自然雑種である。葉柄基部の鱗片は、ミヤマベニシダのように茶褐色である。

県内での産地は田沢湖町刺巻、協和町宇津野に次ぐ。

(14) *Dryopteris* × *watanabei* Tagawa. 「フジオシダ」

抱返のスギ林に1株生育。生育は良い。常緑性のオクマワラビが目立つ。本種はオシダとオクマワラビとの自然雑種である。秋田県の象潟町・金浦町など比較的温暖な由利地方海岸部のスギ林によく見られる。内陸部では本県初めてである。

(15) *Athrium* × *bicolor* Serizawa. 「ニセコシノサトメシダ」

ブナ帯のコシノサトメシダとヤマイヌワラビとの自然雑種。甲山に産す。葉柄が黄緑色で中軸が赤紫色になり、これがよい特徴となっている。秋田県では、本山塊の貝吹岳と鳥海山から初めて採取された。

(16) *Pyrrosia hastata* (Thunb. ex Houtt.) Ching. 「イワオモダカ」

抱返溪谷とそれに注ぐ沢筋のあちこちの高木の上部に大株をつくっている。本県では極めて稀なシダ植物である。全国的に見ても非常に少ない。

(17) *Loxogramme grammitoides* (Baker) C.Chr. 「ヒメサジラン」

真木本流と抱返溪谷の空中湿度の高い苔むした岩肌にびっしりと大量に着生している。東北地方では稀で、県内では散発的で個体数も少ない。

(18) *Lilium maculatum* Thunb. var. *monticola* Hara. 「ヤマスカシユリ」

「我が国における保護上重要な植物種の原状」(レッドデータブック 1989)には本種は危急種とされ、秋田県(稀少)・山形県(稀少)・宮城県(危険)・福島県(危険、西合津では絶滅寸前)新潟県・長野県(北部)。日本固有と記されている。

林一彦博士によれば本種はおそらく海岸部のスカシユリが内陸へ分化していったものと考えられ、現在研究段階の植物とのことである。また、秋田は本邦でも最も多く産する県とのことである。なかでも和賀山塊のあちこちの岩場に多産し、少しも珍しくない。そして、高度1000m 付近の自生地ではイブキジャコウソウ・イワオウギ・タカネナデシコ・ハクサンサイコ・エゾツツジ・ミヤマトウキ・ユキワリコザクラ・イワヒバ・ミノボロ・チャボゼキシヨウ・エゾノヒメクラマゴケなどと共生している。

(19) *Koeleria cristata* (L.) Pers. 「ミノボロ」

ミノボロはイネ科の興味深い植物である。日本には、ヨーロッパなどからの帰化植物と在来種がある。前者は人里の平地に見られるが、秋田県からは報告がない。帰化品は一般に全体大きく、剛壮である。小穂を蜜につけ、毛が多い。日本産のものは、繊細で美しく、ほとんど毛がなく、小穂はまばらである。日本ではブナ帯上部の乾いた岩場に生える。ヨーロッパでも乾いた砂地、礫地、岩場に生えることが知られている。TNSの標本によると、ヨーロッパ・ソビエト・アメリカ等の外国産、また国内帰化品に混じって日本在来種と思われるものは上信越高原国立公園の戸隠山・乙見山峠産があった。そのほかの詳しい産地はよくわからない。いずれにしても日本在来種は極めて稀な植物といえる。これが秋田県の山岳の岩礫地の草地などに自生している。既に本山塊の薬師岳・甲山に産することは知られていた。その後、鳥海町丁岳の岩場に僅かにあるのが確認された。

本年、薬師山・甲山で新たな群生地を確認。続いて低地点の川口溪谷、真木溪谷にも現れた。このことは全く予想外のことであり、特に真木溪谷高度300m地点のものは日本におそらく例がなく、植生上特筆に値する。このことから真木溪谷には他にまた生育している可能性は十分にある。したがって和賀山塊は、日本列島における本種の重要な自生地であり、学術上価値が高い。

なお、本種の同定にあたって、館岡博士からは次のようなお便りをいただいた。「日本のミノボロに帰化品と土着の系統があることは、ずいぶん古くに大井先生も注意されていたことですが、和賀山塊にもでるとのこと面白い事実だと思えます。先年、私も越後の雨飾山の高地での土着の系統をとりまして、それは和賀山塊のものと似たものですが、そのとき染色体等を調べたのですが、帰化品と特に違った点はなく、同一種類とみています。ミノボロは変異のはげしい種類で、和賀山塊の系統も種としてはミノボロに含まれるとみてよいように思います。」

国内産のミノボロには生育環境・生態等に差異があり、近縁種との関連など、今後まだ研究の余地のある植物と思われる。

(20) *Trisetum sibiricum* Rupr. 「チシマカニツリ」

本県では、本山塊のみに産す。二ノ沢畚岳と薬師岳。本年、薬師岳の南側大斜面の草地に群落を発見する。

(21) *Listera nipponica* Makino. 「ミヤマフタバラン」

甲山のブナ林上部の灌木林下にまばらに点々と生えている。

(22) *Orchis chidori* (Makino) Schitr. 「ヒナチドリ」

川口溪谷の岸壁などに産す。秋田県、ごく稀なラン科植物である。

(23) *Pilea japonica* (Maxim.) Hand.-Mazz. 「ヤマミズ」

暖地性の植物。本県では鷹巣町、抱返溪谷から報告されている。従前は宮城県以南に分布するとされた。本年、角館町甘酒長根の尾根筋に多数自生しているのが発見された。

(24) *Bistorta major* S.F.Gray var. *japonica* Hara. 「イブキトラノオ」

甲山の高茎草原に群生する。本県稀産の植物である。

(25) *Silene aomorensis* Mizushima. 「アオモリマンテマ」

レッドデータブック（1989）では危急種にあげられている。青森・秋田両県のみに産す。日本固有。西津軽の然ヶ岳産の個体をタイプとして水島正美博士により昭和48年青森県特産として発表された植物である。その後白神山地、秋田県からも発見された。しかし、生育地は極めて限定され、個体数も少なく盗掘などにより急速に減少している。本山塊では真木溪谷に少なからず自生している。今のところ、この溪谷の流域の5ヶ所で確認している。生育状態は良く、環境は保全されている。今後も本溪谷から発見される可能性は十分にある。真木溪谷はおそらく本種の最大の産地と想像され、種の保存上、極めて重要な地域と考えられる。

(26) *Hepatica mobilis* Schreber var. *japonica* Nakai. 「ミスミソウ」

中仙町小滝山・川口溪谷の南斜面のケヤキ林などに広範囲に生えている。秋田県では笹森丘陵、保呂羽山などに産し、稀な植物である。

(27) *Ranzania japonica* (T.Ito) T.Ito. 「トガクシショウマ」

日本特産属、日本海要素の植物で、全国的には稀な植物とされているが、本山塊ではブナ帯の沢筋などに広く産す。

(28) *Pteridophyllum racemosum* Sieb. et Zucc. 「オサバグサ」

日本固有属で一属一種。本州（北～中部）の亜高山～高山の針葉樹林に産することが知られているが、東北地方ではブナ帯の夏緑の下に生じる。本山塊のブナ

林とブナ帯上部の灌木林の下草としてびっしりと大群落を成している。朝日岳は山麓と高山草原を除く低木林下にリシリシノブ・キバナウツギなどと生えている。他に甲山、真木溪谷、中ノ沢岳などに多産する。

(29) *Rhodiola rosea* L. 「イワベンケイ」

薬師岳の岩礫地に多く自生している。本県での確実な産地である。

(30) *Geum calthaeifolium* Smith var. *nipponicum* (F.Bolle) Ohwi.

「ミヤマダイコンソウ」

本県では秋田駒ヶ岳など産地の限られた高山植物である。本山塊では、和賀岳に産するが、今回、甲山のほかに真木源流の岩場からも採取した。生育が良く、多く自生している。

(31) *Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schn. 「オオウラジロノキ」

田沢湖町小影山の尾根筋に自生。その数20本余。高木である。抱返にも産す。秋田県新産。鳴橋博士によると本種は全国的にも稀な植物で発見されにくい植物とのことである。

(32) *Hedysarum vicioides* Turcz. 「イワオウギ」

秋田県では本山塊のみに広く多産する。本年は真木源流部からも採取した。

(33) *Therorhodium camtschatium* (Pall.) Small. 「エゾツツジ」

甲山とここを発する沢筋の草原の所々に多産する。花期は見事である。生育は良く、環境は安定している。海拔750mから出現し、このような低所での生育は珍しく、また本山塊が実質的な本種の南限である。

(34) *Arcterica nana* (Maxim.) Makino. 「コメバツガザクラ」

秋田県では鳥海山、秋田駒ヶ岳などの高山岩礫地に生える高山植物であるが、本山塊の標高1000mそこそこの甲山に生き残っている。

(35) *Swertica tetrapetara* Pallas. 「チシマセンブリ」

変異の幅が広く、全国的に稀な植物である。本県では和賀山塊のみに産す。東北地方では岩手県の焼石岳に産することが知られ、ヤケイシセンブリの名で呼ばれていた。朝日岳・和賀岳・小杉山・薬師岳の尾根筋の高山草原に多産する。

(36) *Primura modesta* Bisset et Moore var. *fauriei* (Franch.) Takeda.

「ユキワリコザクラ」

本山塊の薬師岳と真木源流に多く自生している。

(37) *Salvia lutescens* Koidz. var. *crenata* (Makino) Murata. 「ミヤマタムラソウ」
抱返溪谷に多産する。抱返のスギ林からも採る。秋田県稀産の植物である。2本の雄蘂が花の外に長くまっすぐつきでる。

(38) *Pseudolysimachion schmidtianum* (regel) Yamazaki subsp.

senanense (Maxim.) Yamazaki f. *tomentosum* Yamazaki. 「ミチノククワガタ」

本種はミヤマクワガタの東北地方における一品種で山形県高島町観音岩産がタイプローカリティになっている。他に福島県に産す。いずれも個体数は多くない。葉が深く切れ込んだ重鋸歯で全体に毛が多い。

秋田県では、和賀山塊のみに広く群生をなして自生している。田沢湖町の小黒沢と二ノ沢畚岳、太田町真木溪谷桑原沢・川口溪谷などの岩礫地に産す。花期には壮観である。生育地によって花の大きさや色、葉が越冬するもの、地下部の分枝の仕方などの変異あり多様である。しかし、山崎博士によると本山塊の標本は磐梯山のものより全体に毛が多いのですべてミチノククワガタとしますとのことであった。また、本種もバンダイクワガタ品種程度の差なので、地域的な差異はあっても連続的なもので、将来はバンダイクワガタとして区別せず扱うことになるかもしれませんとのことである。

(39) *Melampyrum laxum* Miq. var. *nikkoense* Beauverd. 「ミヤマママコナ」

角館町甘酒長根の尾根筋に多数生育している。秋田県稀産の植物である。

(40) *Euphrasia insignis* Wettst. var. *japonica* (Wettst.) Ohwi.

「ホソバコゴメグサ」

太田町薬師岳の崩壊地に生える。秋田県稀産の植物である。

(41) *Conandron ramondioides* Sieb. et Zucc. 「イワタバコ」

東北地方では極めて稀で山形県と青森県からは報告がない。本県では和賀山塊のみに広範囲に大量に産す。特に堀内沢・真木溪谷・川口溪谷に多産する。他に真木源流・袖川・中ノ沢などの暗い湿った岩肌に群生している。生育はすこぶる良い。

奥羽山脈ブナ群綱域の冷涼な本山塊になぜ本種がこんなに多く生育しているのかは良くわからない。植生上比較検討の余地があるかもしれない。

(42) *Lonicera caerulea* L. var. *veulosa* (Maxim.) Rehd. 「マルバヨノミ」

朝日岳の稜線に多産する。本山塊では他に貝吹岳に自生。秋田県では他に阿仁町、鳥海山に産す。

(43) *Valeriana fauriei* Briq. 「カノコソウ」

真木源流の雪崩斜面の広葉草原に生える。多年草。個体数は少ない。本県での自生は極めて稀である。

(44) *Cacalia hastata* L. subsp. *orientalis* Kitam.

var. *chokaiensis* (Kudo) Kitamura. 「コバナノコウモリソウ」

甲山の高山性草原に生える。小山博士の同定による。

(45) *Saussurea franchetii* Koidz. 「ミヤマキタアザミ」

小山博士の同定による。朝日岳と甲山に産す。いずれも生育数は限られている。鳥海山（山形）に産すが、秋田県からは初めてと思われる。植生上貴重な植物として十分な保護が望まれる。

(46) *Saussurea reideri* Header var. *japonica* Koidz. 「オクキタアザミ」

朝日岳に産す。同定は小山博士による。ナガバキタアザミ（北海道、早地峰山）の変種とされ、鳥海山の特産とされていた。（植物学雑誌第29巻 1915）

(47) *Saussurea sagitta* Franch. 「ヤハズトウヒレン」

甲山に産す。他に本山塊薬師岳の標本がA K Mにある。秋田県の極めて稀な植物である。小山博士の同定による。

引用文献

1. 倉田悟・中池敏之、日本のシダ植物図鑑1～6 日本シダの会 東京大学出版会
2. 和賀山塊調査中間報告、1991 和賀山塊を愛する会
3. 堀井雄治郎・佐藤隆、和賀山塊の稀産植物(1) 1991 秋田自然史研究No.27 秋田自然史研究会
4. 芹沢俊介、1980 日本産サトメシダ類の新種および新雑種 植物研究雑誌 第55号 第8号
5. 芹沢俊介、1970 アジア産シダ植物考察(2) 植物研究雑誌 第45号 第9号
6. 堀井雄治郎、1989 秋田県植物採集ノート(1)(2) 秋田自然史研究No.24 秋田自然史研究会
7. 堀井雄治郎、1990 秋田県植物採集ノート(3)(4) 秋田自然史研究No.26
8. 結城嘉美、1992 新版山形県の植物誌 「新版山形県の植物誌」刊行委員会
9. 上野雄規、1991 北本州産高等植物チェックリスト 東北植物研究会
10. 収蔵資料目録 自然Ⅱ 種子植物（合弁花類） 1982 秋田県立博物館
11. 福島県植物誌 1987 福島県植物誌纂編委員会
12. 岩手県植物誌 1970 岩手植物の会
13. 我が国における保護上重要な植物種の現状 1989 日本自然保護協会他
14. 沖田貞敏、1984 レンブクソウとヤマミズの採集報告 秋田自然史研究No.18 秋田自然史研究会
15. 白沢芳一、1989 秋田県産植物報告 秋田自然史研究No.24 秋田自然史研究会
16. 神室山・加無山総合学術調査報告 1978 山形県総合学術調査会
17. 赤石川流域の自然 1991 青森県立郷土館

18. 秋田県真木溪谷の植生及び植物相 1982 秋田県
19. 日本自然保護協会報告書 第62号 1986 白神山地のブナ林生態系の保全調査報告書
財団法人日本自然保護協会
20. 宮城県産植物報告書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 1985、1987、1988、1990 宮城県植物目録小委員会